

from **NOW ON** KANSAI

ひとを見つける、ひととつながる  
関西広域連合のビジネス情報紙



**絶やしてはいけない技と誇りを守る  
伝統産業の生き残りをかけた挑戦**

～滋賀県麻織物工業協同組合



◀ 緯糸を調整して緋の柄を手作業で合わせていく

## 絶やしてはいけない技と誇りを守る 伝統産業の生き残りをかけた挑戦

### 時代の変遷に対応すべく協同組合を設立する

天然繊維の中でも麻は、独特のシャリ感があり、通気性、耐久性の良さ、速乾性から、夏用の衣類、のれん、ふきんといった生活雑貨に重宝される。関西では滋賀県湖東地域が室町時代より続く麻織物の産地として知られ、伝統的な素材・技法を用いた近江上布は、経済産業省の伝統的工芸品にも指定されている名品だ。

湖東地域で麻織物が作られるようになったのは、琵琶湖に注ぐ愛知川や宇曾川が作る扇状地は湧き水が豊富で、多く



▲大正時代の郡役所を保存整備した建物「ゆめまちテラスえち」の1階が近江上布伝統産業会館

### ●プロフィール

#### 滋賀県麻織物工業協同組合

昭和32年(1957年)設立。麻織物のあらゆる工程を担う企業が加盟し、経済産業省・伝統的工芸品の「近江上布」をはじめ、現代的なデザイン性を備えた「近江の麻」、風合い豊かなシボが特徴の「近江ちぢみ」など、貴重な麻織物の魅力の発信、継承に取り組む。

〒529-1331滋賀県愛知郡愛荘町愛知川32-2

<https://omi-jofu.com/aboutus/>

の水を必要とする麻織物作りに適していたことが挙げられる。さらに、東西を結ぶ交通の要衝で、多くの人が行き交い、近江商人が全国各地に湖東の麻織物を広げたことも発展に寄与したといえるだろう。

しかし時代の推移とともに、伝統的な麻織物産業の維持・継承には、さまざまな困難を伴うようになり、昭和32年(1957)には、滋賀県麻織物工業協同組合が結成された。製織工程だけではなく、染色・整理加工など各工程を担う業者が加盟しており、当初は共同購入・販売、金融対策といった地場産業の保護を目的に掲げた。その後、時代が平成に移る頃には、麻織物産業はさらに低迷。組合の事業方針を、後継者育成、伝統的な技術の継承、近江上布の情報発信へとシフトし、近江上布伝統産業会館を拠点に取り組みがスタートした。

## 伝統を引き継ぐことで産地としての魅力を守る

現在、伝統的な手法で麻織物を作っている組合員は限られ、機械織りがメインとなっている。手間と時間がかかる手織りを、産業として成り立たせることは難しいからだ。しかし、世界に一つしかない技術を守り、後世に伝えていくことを諦めてしまえば、湖東地域の織物産地としての魅力が無くなってしまうと、同組合理事長の川端正隆氏は技術継承の重要性を力説する。麻織物産地に関するインターネットでの検索ワードのトップは「近江上布」で、伝統的工芸品としての近江上布そのものが強力なブランド、産地の旗印であり、バックボーンにもなっている。「現在のところ、伝統的技法で織れるのは年間十反程度ですが、たとえ量は少なくとも、伝統的なものづくりを継承していくことが、産地の活性化につながると考え、特に後継者の育成に注力しています(川端理事長)」

同組合では、現在、職人の養成だけにとどまらず、小学校の出張授業や近江上布伝統産業会館での一日体験など、より広い視点に立った活動が進められている。地域の産業に対する子どもたちの理解を深め、より深く知りたいと考える人に体験の機会を積極的に提供して、未来の消費者や担い手となる人の裾野を広げることを目指している。

## 特別な仕事に関われることが 研修生の誇りになっている

職人養成のために、組合では10か月間の研修を実施している。年に1回ホームページで公募告知を行い、定員以上の応募があるという。趣味として楽しみたい人からの応募もあるため、近江上布伝統産業会館で体験をした経験があることを応募の必須条件に掲げ、事前説明会では研修の持つ意味や内容について詳しく伝える。

さらに上のレベルを目指す研修も用意されている。この段階になるとパートタイム職員として会館などでの体験指導などの業務をこなしながら、より高度な技術を身につけていく。貸し出された地機(じばた)を使って、織物作りを行う実践的な研修で、完成したものはすべて組合が買い取っている。現在、5~6人が職員として業務をしながら研修を受けている。



▲伝統的な地機(じばた)を使った織り体験ができる



▲滋賀県麻織物工業協同組合理事長の川端正隆氏

40代以上で地域に他の仕事を持つ人が中心になっている。会館からの収入はあるものの、織物づくりだけで生活するのは難しいからだ。「それでも続けられるのは、伝統的工芸品を作る特別な仕事に関わっているプライド、自らの手で織り上げていくという喜びを実感しながら織っている人が多いからだと思います(川端理事長)」

## 日常生活に不要なものを 作り続ける必要があるのか?

経済産業省では、伝統的工芸品を「主として日常生活の用に供されるもの」と定義している。日常生活の中で伝統的工芸品が使われる機会が大幅に減ったいま、川端理事長は「こんな時代に伝統的工芸品を作る意味は?」と聞かれることも多いという。そのような中ではあるが、大阪・関西万博の滋賀県ブースには会館で作成した麻織物が採用され、令和7年秋に滋賀県で開催が予定される国民スポーツ大会の表彰状にも使われるなど、日本や関西、滋賀県が誇る匠の工芸品として近江上布にスポットライトが当たる。今夏に就航したクルーズ船・飛鳥Ⅲには、各都道府県の部屋があり、滋賀県の客室にも近江上布が使われているようだ。

「伝統的工芸品は日本の文化を代表するものだと、つくづく思います。私たちが機械織りに慣れてしまうと、商売にならないものにお金をかけてどうするんだ?という考え方になりがちです。しかし、織物産地としての湖東の魅力は何かと問われると、真っ先に国の伝統的工芸品、近江上布の産地であるということになります」と川端理事長。伝統的工芸品の産地であることを単なる昔話にしないためには、しっかりと後継者育成に取り組む必要があると強調する。

## 後継者が作り続けられるよう 和装産業に活路を見出す

後継者育成に注力してきた結果、生産量も徐々に上がり、注目される機会も増えてきた。その次に課題となるのは販路の開拓だ。作り手を育成した限りは、製品を売る仕組みを考えなくてはならない。加盟企業の中には事業継承が難しいと

ころもあり、組合の先行きにも不安がある中、伝統的なものづくりを継続できる販売ルートの開拓・確保は、後継者育成の継続・充実にもつながる。現在のところ、呉服関係とのルートができ、そのつながりをより確かなものにしていくことが、これからの目標だ。

もちろん、販路開拓の歩みは、容易なものではなかった。紆余曲折の末に和装関係に落ち着いた経緯があり、組合員の中には「近江上布で商売ができるのか」という否定的な声もあり、川端理事長自身も反論できないところがあったという。近江上布という看板を捨てて、新しいブランドを立ち上げて、小物でも作るべきかとも考えたそう。しかし、苦い経験もしながら、伝統的なデザインのものに着尺として販売していくというベーシックな売り方に落ち着いた。「現在は、需要と供給のバランスの中でのものづくりを行っている状態です。とはいえ生産量が少ないので、近江上布を探している人があちこちにおられます(川端理事長)」

### 認知度を向上させれば、継承にも好影響が及ぶ

組合では、近江上布伝統産業会館で作られた機械織りの麻織物を、手織りの「近江上布」とは異なる「Omi-Jofu」ブ

ンドとして販売している。伝統的工芸品としての「近江上布」は決められた素材、製法で作ったものに限定されるが、それ以外のものを近江上布ではないとしてしまうと、近江上布そのものの認知度アップや普及に悪影響を与えるリスクがあるからだ。購入しやすい価格で、小物なども用意されている「Omi-Jofu」は、会館のほかオンラインショップでも販売され、幅広い層に向けて積極的に販売することで、麻織物ファンを作り、産業としての裾野を広げることにつながる。

「私たちは保存会でも、学術的な機関でもありません。作ったものを買っていただくことで産業として継続させていくことを目指しています。そう考えると、多くの人に知っていただくためには、別ブランドでの販売展開も必要なんです(川端理事長)」

会館にはさまざまな個人、団体が来館し、新しい情報やヒントを得ることも多く、机上での事務仕事だけでなく、多くの人と触れ合える「場」があることが、本当にありがたいと川端理事長。同組合では、裾野を広げる活動の一環として、大阪・関西万博のギャラリーEASTにて9月29日～10月4日に開催される関西広域連合のイベントでも、展示やワークショップを予定している。日本、関西、そして滋賀県が誇る伝統工芸品の魅力を、ぜひ確かめていただきたい。



▲ハンカチなど身近なアイテムもそう「Omi-Jofu」



▲麻のカーテン(2023年グッドデザインアワード受賞作品)



▲ミャクミャク万博ポーチ(近江上布伝統産業会館内ショップ及びオンラインショップにて購入可能)  
※本商品は万博会場内での販売はありません

「関西ポテンシャルマップ」では関西広域連合域内の【伝統産業(伝統工芸品)】、【大学、工業系公設試験研究機関】等5つの分野で産業の強みを可視化しています。ぜひご覧ください。



関西ポテンシャルマップ

【伝統産業(伝統工芸品)】についてのより詳しい情報は、「関西ポテンシャルマップ一覧表」も併せてご覧ください。



関西ポテンシャルマップ一覧

広域産業振興局では関西の成長の方向性を示した「関西広域産業ビジョン」を策定しています。万博開催年前後における関西広域連合の取組をまとめた「アクションプラン」、関西広域連合構成府県市における特長的、先進的、または注力している事業や取組をまとめた「構成府県市リーディングケース」もぜひご活用ください。



関西広域産業ビジョン

関西広域連合 広域産業振興局NEWS

**メルマガ会員募集中!**

ぜひ、ご登録ください(登録無料)

kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp



関西広域連合 広域産業振興局 公式Instagram

**イベント情報発信中です。**

フォロー・いいねをお願いします!

@kouiki\_sangyo



発行元/関西広域連合 広域産業振興局  
〒559-8555 大阪市住之江区南港北 1-14-16

大阪府商工労働部 商工労働総務課内  
TEL06-6614-0950 FAX06-6210-9481  
E-mail sangyo@kouiki-kansai.jp

URL <http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/index.html>

さあ、関西の時代へ



関西広域連合  
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS